

いもコミュニティ・ビジネスで未来を開こう！

川越いも友の会 事務局長 山田 英次

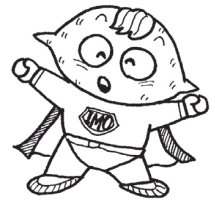
いも類振興情報が創刊されて、早25年。わが川越いも友の会（会長：ベリー・ドゥエル）も1984年3月に発足し、やはり25年。同じ歳月を歩んできた訳である。川越いも友の会は、「川越地方のサツマイモ伝統文化を保存するための市民活動」と「サツマイモ愛好者や研究者、業者などを結ぶ文化活動」を目的として、川越いも祭、シンポジウム、いも作り農場、講演会、料理講習会、サツマイモ関係の小冊子などを発刊し、活動してきた。

そんな活動の中で、平成元年にはサツマイモ資料館（平成20年6月閉館）の建設に全面的に協力し、企画推進した私が責任をとって市職員から館長に転身した。初代館長を勤めた3年間は、大きくイモ人生を拓くことができた。全国、また海外からもイモ関係の研究者や自治体職員、業者、消費者などが来館され、イモ仲間ネットワークを築くことができた。ほとんどの方は、イモに対して熱く燃えている方々で、今でもそのイモ縁でお付き合いいただいている。

館長を辞めた後も、川越いも友の会の事務局長ということで、時折り、それも突然、地方のイモ関係者より相談のお電話をいただくことがある。わが地



域には〇〇という伝統的なイモがあるが、地域おこしのため〇〇という加工製品を作ってみたいがうまくいくだろうか？。



また、マスコミ関係者からも、焼きいものイロハについて聞きたいなどというものだ。さらに、川越のイモ資料館が閉館する時には、なぜ川越の市役所に働きかけて存続させないのかと市民の方よりお叱りの言葉もいただいた。各地域には、各地域なりのイモ振興課題がある。

私が最近思うのは、そういった各地域のイモ振興課題に対して、身の丈ビジネスという手段で皆さんの利益を広く考えながら解決していったらどうかということである。これは地域に根ざした「いもコミュニティ・ビジネス」である。ビジネスだから事業プラン・推進・継続もしっかりとさせなければいけない。ノウハウをしっかりとさせなければいけない。いも仲間の力と心をひとつに合わせれば出来ないことではないと思っている。一度、イモに夢をもっている方々とゆっくり話し合いたいとも思っている。

最後に私自身のイモ振興テーマをあげれば、「焼きいも百科」なる本をイモ関係者の協力を仰いで正式に大手出版社より出し

たいと思っている。更に「大焼きいも市」なるイベントを開催したい。「大学いも小百科」なる小冊子も出したい。「高系14号」や「ベニアズマ」のイモ文化もまとめた

い。いも類と健康、特に「イモと乳酸菌」「ポテト&ミート」なる課題も推進したい。そして「おいも漫画」も描いてみたいと思っている。

